

要 望 書

(仮称) 福島北風力発電事業の中止を要望します

私どもNPO法人野鳥の会ふくしまと日本野鳥の会ふくしま、(公財)日本野鳥の会は、(仮称) 福島北風力発電事業において、国内希少野生動植物種及び環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠB 類、ふくしまレッドリスト絶滅危惧Ⅰ類に指定されているクマタカの生息へ悪影響を及ぼす可能性が極めて高く、風車建設によって生じる生物多様性の減少など、生態系への影響を懸念しております。

クマタカは食物連鎖の頂点に立ち、豊かな森林生態系の指標となる重要な存在です。クマタカが複数番生息し、繁殖できることは、その地域に広大で豊かな自然環境が保たれている証拠でもあります。計画地は福島市内においても生物多様性に富んだ貴重な環境であり、未来へと残していくことは、非常に重要であると考えられます。

当該事業につきましては、日本野鳥の会ふくしまが計画段階配慮書に対する意見書を令和2年6月19日付けにて既に提出させていただいており、その際にクマタカの生息の状況にかんがみ、開発による狩場の減少、繁殖地の放棄、生息地自体の消滅の懸念から、対策を講じることを求めてきました。

現在、縦覧中の評価書では計画地内に風車を設置することにより、資材運搬等に伴う多くの人や重機の出入りなどの人為的影響、環境改変による保護上重要な鳥類の生息地放棄、バードストライク、移動の障壁となる可能性が極めて高いものと考えられます。

また、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の第三十四条にある「土地の所有者又は占有者は、その土地の利用に当たっては、国内希少野生動植物種の保存に留意しなければならない」という土地所有者の義務に鑑みても、計画地での風力発電事業を行うべきではなく、福島市長が令和7年1月21日の記者会見にて当該事業の国有林野貸付の市町村長同意には、「同意しない」という宣言に、強く賛同するものであります。しかしながら、事業計画についていまだ事業者は、白紙撤回の意向を示していない状態にあり、事業の進捗について強い懸念を抱いております。

かねてから配慮書に対するご意見を申し上げてきたとおり、現在縦覧中の評価書では国内希少野生動植物に指定されているクマタカをはじめとする保護上重要な野鳥の生息に甚大な影響があることから、福島市長の国有林野貸付に係る市町村長同意には、「同意しない」ことの継続と、事業者に対し、(仮称) 福島北風力発電事業の中止を市長として述べていただくことを要望致します。

福島市長 木幡 浩 様

令和7年 2月14日
NPO法人野鳥の会ふくしま
理事長 藤田 赳

日本野鳥の会ふくしま
代 表 三本杉 松夫

公益財団法人日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一